

項目		既存資料調査	市民アンケート調査（平成28年度実施）	課題
自然・社会 条件	沿革	●田川市は、明治末期には良質な石炭を産出し、筑豊最大の炭都として栄えた地域であり、戦後の1950年代には人口が10万人を突破したが、1960年代のエネルギー政策の転換により衰退が進んだ。その後、産業構造の転換に向けて、炭鉱跡地を工業団地として積極的な企業誘致が進められ、平成4年に医療・福祉の人材育成を目指して福岡県立大学が開学された。近年では旧三井田川鉱業所伊田堅坑槽と二本煙突の近代化産業遺産を活用し、交流人口拡大へ向けた取り組みなども進められている。	—	—
	地象・水象	●市の北東部の最も標高の高い部分で460m、市西部の関の山が標高359m、南西部の金国山が標高422m、摺鉢山（帝王山）が標高213mとなっており、緑豊かな自然環境が広がっている。また、市の中央部を彦山川、中元寺川をはじめ、金辺川等の支流が流れている。各河川は彦山川に合流し、さらに遠賀川に合流している。	—	—
	気象	●田川市は日本海型気候区に属している。この気候区は、年平均気温が15～16℃、1月の平均気温は6℃以下で、他の気候区に比べて寒いのが特徴である。また、年降水量は1,700mm前後で降水量が少ない地域である。市内には気象観測所が設置されておらず、最も近い観測所である添田観測所の平成28年における平均気温は16.1℃、総降水量は2,435mmであり、過去10年間の年平均気温は15.3℃で、年平均降水量は979mmである。	—	—
	人口	●平成27年の国勢調査人口は48,441人、世帯数は20,955世帯で平成22年に比べて減少傾向にある。年齢構成をみると、年少人口、生産年齢人口が減少し、老年人口が増加している。 ●平成23年から27年までの人口動態をみると、平成23年以降、自然減・社会減となっており人口が減少している。	—	★人口減少、高齢化の進展をふまえた環境問題への対応
	産業	＜産業構造＞ ●経済センサス基礎調査による平成26年の産業大分類別就業人口は、第三次産業が20,801人（83.3%）で最も多く、第二次産業が4,082人（16.4%）、第一次産業が74人（0.3%）となっている。平成21年に比べて事業所数は減少、就業者数は増加している。 ＜農業＞ ●平成27年における総農家数は547戸、経営耕地面積は477haで、いずれも平成22年に比べて減少している。 ＜工業＞ ●製造業の事業所数は、平成2年をピークに減少しており、従業員数は平成17年にかけて減少し、平成22年からは増加している。製造品出荷額は昭和60年をピークに平成17年にかけて減少し、平成22年からは増加している。 ＜商業＞ ●平成26年現在の店舗数は529店舗、従業者数は3,289人、年間販売額は65,756百万円となっている。経年変化をみると、商店数、従業者数、年間商品販売額ともに減少傾向にある。	◆現在の環境基本計画の満足度と重要度の相対的比較では、「農村環境の保全」は現状維持分野（満足度＝高、重要度＝低）に位置付けられる。	★環境に配慮した事業活動

項目		既存資料調査	市民アンケート調査（平成28年度実施）	課題
自然・社会条件 (つづき)	交通	<p>●田川市の主要な道路としては、東部から南部に至る国道201号、南部から東部に至る国道322号と主要地方道（田川直方線・田川桑野線・添田赤池線・八女港春線）がある。</p> <p>●鉄道では、JR後藤寺線、JR日田彦山線、平成筑豊鉄道が市内を縦横断しており、市内には8駅が設置されている。平成筑豊鉄道の乗降客数は平成23年度以降減少傾向にあったが、平成27年度はやや増加している。</p> <p>●交通空白地域を埋める形で田川市コミュニティバスが6路線を設定して運行されている。</p>	—	★大気汚染、騒音等の防止
	観光	<p>●日帰客数は平成17年から平成24年までは増加していたが、平成25年には大きく減少し、平成26年にはやや増加している。宿泊客数は平成17年から25年にかけて横這いで推移しており、平成26年には増加している。</p>	—	★観光と環境の調和
	土地利用	<p>●平成25年度現在の地目別面積をみると、田687.4ha（22.7%）、畑136.8ha（4.5%）、宅地970.2ha（32.1%）、山林570.4ha（18.8%）、原野417.7ha（13.8%）、雑種地239.0ha（7.9%）、その他5.2ha（0.2%）で、総面積の約8割を田畑や森林・原野が占めている。</p> <p>●市の全域が都市計画区域であり、中央部に用途地域が設定されている。</p>	—	★自然環境と調和した適正な土地利用
	水利用	平成25年度現在の水道施設の普及率は99.2%である。	—	★遠賀川の上流域に位置する市としての河川水質汚濁防止対策
	歴史・文化	<p>●歴史・文化を伝える資源として、石炭記念公園がある。公園内には「田川市石炭・歴史博物館」があり、石炭関連資料や考古・歴史資料が展示されており、平成23年に日本で初めてユネスコ世界歴史記憶遺産に登録された「山本作兵衛コレクション」も所蔵されている。</p> <p>●国指定3件（旧三井田川鉱業所伊田堅坑櫓など）、県指定8件（岩亀八幡神社梵鐘など）、市指定12件（白鳥神社（猪国）のクスノキなど）、その他（位登古墳など）11件の文化財がある。</p> <p><国指定> 有形文化財 3</p> <p><県指定> 史跡1、天然記念物 1、有形文化財 2、有形民俗文化財 1、無形民俗文化財 1</p> <p><市指定> 史跡3、天然記念物 2、有形文化財 5、有形民俗文化財 1、無形民俗文化財 1</p>	◆現在の環境基本計画の満足度と重要度の相対的比較では、「歴史的・文化的環境の保全・活用」は現状維持分野（満足度＝高、重要度＝低）に位置付けられる。	★歴史文化の保護・継承

項目		既存資料調査	市民アンケート調査（平成28年度実施）	課題
自然環境	地形・地質	<p>●田川市は、北部と西部に山地、中央部に丘陵を擁し、北部山地と中央丘陵の間に英彦山川、西部山地と中央丘陵の間に中元寺川が北流している。英彦山川と金辺川は市北部で合流し、伊田および金川の沖積平野を形成している。中元寺川は、市南部で猪位金川を合わせ、位登から奈良・川宮に至る沖積平野を形成している。泌川は、田川市北方の福智町で中元寺川に合流している。</p> <p>●田川市の地質は、西部山地（金国山地）南部の変成岩類、西部山地北部および北部山地の古生代呼野層群、北部山地と猪位金地区に貫入している中生代白亜紀の花崗岩類、田川中央丘陵（大峰丘陵）を構成する古第三紀層、古第三紀層に貫入している玄武岩類、そしてこれらを覆う第四紀の阿蘇4火砕流堆積物、段丘礫層、完新統に大別される。</p>	—	<p>★市の自然環境のモニタリング</p> <p>★希少野生動植物の保護</p> <p>★生物多様性への配慮</p> <p>★外来生物対策</p>
	在来野生動植物	●田川市の植生は、スギ・ヒノキ・サワラ植林、水田雑草群落などが多く分布している。	<p>◆現在の環境基本計画の満足度と重要度の相対的比較では、「動植物の生息・生育空間の保全、再生」は不満解消分野（満足度＝低、重要度＝低）に位置付けられる。</p> <p>◆現在の環境基本計画の満足度と重要度の相対的比較では、「優れた自然環境の保全」は現状維持分野（満足度＝高、重要度＝低）に位置付けられる。</p>	
	希少野生動植物	●田川市では、福岡県版レッドデータブックに記載されている多くの種が確認されている。		
	外来生物	●平成25年、28年に市内でセアカゴケグモが発見されている。		
	生物多様性	●現環境基本計画策定時に実施した自然環境調査によると、田川市の自然環境の価値が高い地域としては、大法山や夏吉のスタジイ林等の里山の自然林、ロマンスケ丘一帯や関の山山頂の草原、彦山川、中元寺川等の河川敷や河川、社寺林、市街地に残されたため池や公園等があげられる。		
	自然景観	●地形に係る自然景観資源として、夏吉周辺にある「石灰岩景観」が挙げられている。	—	★魅力ある自然景観の保全
	自然とのふれあい	●子どもから大人まで野鳥に親しめる施設として白鳥ふれあい自然公園がある。	—	★人と自然とのふれあいの確保
	法規制、公有林	<p>●市の北部が筑豊県立自然公園に指定されている。</p> <p>●市内の森林地域の大半は、地域森林計画対象民有林が指定されている。また、その一部が保安林に指定されている。</p> <p>●鳥獣保護区が1箇所（田川鳥獣保護区）ある。</p>	—	★法規制に基づく指定区域の保全
森林、水辺	<p>●平成22年度現在の林野面積は1,555ha（国有林9ha、民有林1,546ha）である。</p> <p>●河川敷などは親水空間や水辺とのふれあいの場として利用されている。</p>	—	<p>★水源涵養・水の浄化のための森林保全</p> <p>★森林の適切な維持管理</p> <p>★河川環境の保全</p>	

項目		既存資料調査	市民アンケート調査（平成28年度実施）	課題
生活環境	大気汚染、悪臭	●市内には、一般大気環境測定局の田川測定局（田川市大字弓削田2838）がある。二酸化硫黄や二酸化窒素の結果をみると、いずれも経年的に環境基準を達成している。	◆現在の環境基本計画の満足度と重要度の相対的比較では、「生活環境の保全」は重点改善分野（満足度＝低、重要度＝高）に位置付けられる。 ◆身近な環境の満足度では、「水（川や池などの水）のきれいさ」に不満を感じている人が57%で2番目に不満度が高い項目となっている。	★良好な大気環境の維持
	騒音・振動	●騒音規制法に基づく規制区域（第1種区域～第4種区域）、振動規制法に基づく規制区域（第1種区域及び第2種区域）が指定されている。		★騒音・振動の防止
	水質汚濁	●田川市内の河川では、金辺川（高木橋）はA類型、中元寺川上流（三ヶ瀬橋）及び彦山川下流（楠橋）はB類型に指定されている。福岡県が測定している3地点の平成27年度の結果をみると、いずれも環境基準値を下回っている。 ●水質汚濁防止法第15条に基づき、福岡県が地下水水質の調査を行っている。平成25年度に本市内において、概況調査1箇所（伊田）で調査した結果、すべての項目で環境基準を達成している。		★定期的な調査による水質のモニタリング ★合併処理浄化槽設置の推進 ★河川水質保全に係る啓発
	土壌汚染、地盤沈下	●本市内には、平成29年3月末現在において、土壌汚染対策法に基づく、「要措置区域」及び「形質変更時届出区域」の指定はない。		★土壌汚染や地盤沈下が判明した場合の適切な対処
	有害化学物質	●平成24年度に福岡県により実施されたダイオキシン類調査結果ではいずれも環境基準を達成している。		★事業者等による有害化学物質の適切な管理
	廃棄物・リサイクル	●ごみの分別区分は4種（可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみ、大型ごみ）、6分別（可燃ごみ、不燃ごみ、かん・びん・ペットボトル、その他プラスチック、大型ごみ）となっており、直営で収集している。 ●ごみの総排出量は平成25年度以降やや増加傾向にある。平成18年度から1人1日あたり排出量が県平均を上回って推移しており、平成27年度は1,139g/人・日、県平均985g/人・日である。 ●リサイクル率については、県平均を大きく下回っており、平成21年度以降は横ばいとなっている。		◆現在の環境基本計画の満足度と重要度の相対的比較では、「資源循環型まちづくり」は重点改善分野（満足度＝低、重要度＝高）に位置付けられる。
	生活排水処理	●平成27年度における汚水処理人口は29,474人で、汚水処理人口普及率は59.88%である。	—	★合併処理浄化槽設置など生活排水の適正処理
快適環境	公園等まちの緑	●都市公園法に基づく都市公園は17箇所（69.7ha）あり、その他の公園は19箇所（14.02ha）ある。	—	★緑化の推進
	まちなみ景観		◆現在の環境基本計画の満足度と重要度の相対的比較では、「美しく快適なまち並みの創出」は重点改善分野（満足度＝低、重要度＝高）に位置付けられる。	★条例や計画に基づく良好な景観形成の誘導

項目		既存資料調査	市民アンケート調査（平成28年度実施）	課題
地球環境	地球温暖化	●市役所の事務事業に伴う二酸化炭素排出量の削減を目指して、「田川市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を定め、取組を進めている。	◆現在の環境基本計画の満足度と重要度の相対的比較では、「様々な地球環境保全対策の推進」及び「省エネルギー・新エネルギー対策の推進」は不満解消分野（満足度＝低、重要度＝低）に位置付けられる。	★緩和策（温室効果ガス削減・吸収対策）と適応策（温暖化による影響を軽減する対策）の両輪での推進 ★省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの導入促進 ★二酸化炭素吸収源としての森林の適切な管理
環境教育・環境学習、環境保全活動	条例・規則など	●環境関連の条例としては、①田川市環境基本条例、②田川市人に優しくうつくしいまちづくり条例、③田川市廃棄物の処理及び清掃に関する条例、④田川市文化財保護条例がある。	—	★環境保全に資する条例の適正な運用
	環境行政組織	●環境対策課が主管として庁内関係課や国・県の行政機関と連携しながら環境行政を推進している。 ●環境の保全及び創造に関する基本的事項について調査審議するための環境審議会が設置されている。	—	★庁内関係課や国・県の行政機関と連携した環境行政の推進
	環境教育・学習		◆現在の環境基本計画の満足度と重要度の相対的比較では、「環境教育・環境学習の推進」は重点改善分野（満足度＝低、重要度＝高）に位置付けられる。 ◆身近な環境の満足度では、「市民の環境に関するモラル（道徳）」に不満を感じている人が68%で最も不満度が高い項目となっている。	★環境教育や環境学習の推進 ★環境情報の提供による環境意識の啓発 ★市民の環境に関するモラルの向上
	環境情報の提供	●市公式ホームページや広報たがわなどを通じて環境情報を提供し、啓発している。	—	
	市民団体の活動状況	●田川市市民活動団体登録制度への登録団体のうち、環境保全活動を含む団体は5つある。それらの団体では、環境美化、環境学習などが行われている。	◆現在の環境基本計画の満足度と重要度の相対的比較では、「協働の体制づくり」は現状維持分野（満足度＝高、重要度＝低）に位置付けられる。	★ボランティア活動への支援など環境保全活動の促進